

とやまの 種もみ



うまい米には、タネがある。



厳正な審査を経て

富山県内外の有識者で構成する「富山県推奨とやまブランド」育成・認定委員会が、「高い品質と信頼性・安全性」、「オリジナリティ」、「富山らしさ」、「市場性」、「将来性」の5つの基準で品目を評価し、厳正な審査を経て、「富山県推奨とやまブランド」の認定品を決定しています。

富山県の極上の産品

「富山県推奨とやまブランド」は、魅力ある富山県産品の中でも、とくに自信を持って誇れる極上の産品です。豊かな自然と歴史、そこで培われた人々の知恵や文化を「とやまブランド」の魅力と結びつけ「富山県」の地域イメージとして国内外に発信しています。

富山県推奨とやまブランド 「とやまの種もみ」認定事業者

となみ野農業協同組合

砺波市宮沢町3-11 TEL.0763-32-8600
<http://www.ja-tonamino.jp/>

富山市農業協同組合

富山市堀川町218番地 TEL.076-425-7555
<http://www.ja-toyamashi.jp/>

みな穂農業協同組合

下新川郡入善町入膳3489-1 TEL.0765-72-1190
<http://www.ja-minaho.or.jp/>

黒部市農業協同組合

黒部市天神新210-1 TEL.0765-54-2050
<http://www.ja-kurobe.jp/>

なのはな農業協同組合

富山市豊田本町3-18-21 TEL.076-438-2211
<http://www.nanohana.or.jp/>

富山県主要農作物種子協会

富山市新総曲輪2-21 TEL.076-445-2343



八十八の米よりも 手間ひまかけて 育てる種もみ



異茎株の抜き取り作業は、異質な稲が見分けやすくなる早朝や夕刻に行われる。



「稲種受払帳」には各地得意先への販売記録が記されている。(大正時代のもの)

よりすぐりの種子だけが、 美味しい米を 実らせる。

「富山から 全国43都府県へ」

陽が西に傾き、屋敷林の影を水田に落としていく。日中の暑さもわずかに和らぎ、吹きはじめた夕風がほ場の稲穂を揺らしている。散居村が広がる庄川扇状地の種もみほ場。出穂期を迎えた砺波市中野の種子場たねばでは、生産者の横山敬一さんが、青々とした稲の間に分

け入って作業に精を出す。「八十八の手がかかると言われる米づくりですが、種もみはその三倍以上の手間がかかります」。額ににじんだ汗を拭いながら、長さや形の異なる穂を注意深く探し、根元から抜き取っていく。この時期に行われる異茎株の抜き取りは、異なる品種の混入を防ぐために欠かすことできない作業だ。

「富山の売薬商人が 広めた評判」

国内有数の米どころ富山県は、種もみの一大生産地でもある。コシヒカリ、あきたこまち、ひとめぼれをはじめ、約50品種もの種もみが、富山から全国43都府県へと出荷され、各地に豊かな実りをもたらしている。とやまの種もみの起源に

ついでには諸説あり、瑞泉寺を建立した純如じゅんこの勧めで生産が始まったとも伝えられる。江戸時代後期には、種もみの斡旋を富山の売薬商人が請け負うようになり、越中の種もみの評判は全国に広められた。

富山県内には、砺波市庄川・中野地区、富山市日方江ひかた、富山市新保、黒部市前沢え、入善町の5つの種もみ産地——種子場がある。どの種子場も、風が通り道となる川や海が近くにあり、また、水はけの良い土と豊

かな水に恵まれた扇状地上に位置している。

朝夕に吹く風は、稲の生育に好影響をもたらす。昼夜の温度差をひろげ、種もみを色づきよく実らせる。稲の葉や穂についた露を払い、病害虫から守ってくれるのも風のはたらきだ。

「庄川から吹く風のことを、ここでは『庄川風おろし』と呼んでいます。この風のおかげで稲が健康に育ち、品質のいい種もみができるのです」。(横山さん)





シャーレに並べた種もみを一定環境に置いて発芽率をチェックする。



ほ場の立札には田植えの日や前作品種の履歴も記載されている。

品質

日々のためまぬ努力が、 品質に磨きをかける。

「生産者名が 信頼の証し」

米の収穫量や品質は、種もみの品質によって大きく左右される。とやまの種もみは、90%以上の高い発芽率、遺伝的純度の高さ、病虫害の少なさ、実りの良さなどで秀でた品質を誇り、全国の顧客農家から大きな信頼を得ている。

とやまの種もみの品質は、二百年以上にわたって改良を重ねてきた栽培技術と生産者のためまぬ努力によって支えられている。田植え

前の土づくりに始まり、草取り、施肥、病虫害防除、変異種・異茎株の抜き取り、刈り取り、そして乾燥・調製・出荷まで、種もみづくりの作業はほぼ一年を通して続けられる。

種もみほ場には、品種や生産者の氏名などを記した「指定種子生産ほ場」の札が立つ。ほ場ごと、生産者ごとの品質管理が徹底され、出



種もみ生産者の横山歌一さん（砺波市）

荷されるもみ袋にも生産者の氏名が明記される。

「種もみを使ってくださる農家にとっては、私の名前が信頼の証しとなります。だから少しも気を抜けません」と、横山さんは誇らしげに話す。

「厳しいチェックを 重ねて」

地域の農協や営農組織では、専用乾燥機や調製プラント、検査設備などを効率的に活用し、生産者と協力して種もみの品質向上を図っている。

行政のバックアップも見逃せない。富山県農業研究所では、高温耐性品種をはじめとする新品種の開発や、富山県の環境に適した品種の選定、栽培技術の研究・

普及にあたっている。

農林振興センターでは、出穂期と糊熟期の2回、県知事が任命する種子審査員を県内の種子場に派遣し、ほ場審査を行っている。ここで異品種の混入、病虫害の発生、生育状況などが、第三者の目によってチェックされる。

さらに収穫後には、地域の農協において、品質の良否を見さわるための生産物審査、発芽試験、DNA鑑定などが実施されている。こうした厳しいチェックをパスした種もみだけが、とやまの種もみとして認められる。



情報交換で
きずなを深める

調製を終えた種もみは、北は東北から南は九州まで、全国の需要地へと出荷される。播種から収穫までの期間も、各地の種子協会との情報交換などを通してのフォロー活動は続けられる。こうした地道な活動が、とやまの種もみの信頼向上に繋がっている。

顧客に送る「取扱品種栽培特性表」は、農家が栽培計画を立てる上での大切な指針となる。顧客からの問い合わせに対しては、原因究明の上で対策を伝え、万一の場合の補償も行っている。ほ場での作業が一段落する冬場には、富山県主要農作物種子協会を中心に、県関係機関の担当者らが全国の需要地を訪問し、種もみへの意見や要望などの聞き取りを行う。ここで得られた意見や要望が翌年の生産に生かされ、より良い種子生産へと繋がっていく。

品質管理は
最後の仕上げまで

昨夜までの雨が上がり、ひさしぶりの青空が顔を覗かせた。砺波市中野の種もみほ場。たわわな実りをつけた稲穂が、太陽の光を浴びて黄金色に輝いている。

手塩にかければかけるほど、つぎの秋への期待が高まる。

雨露が乾くのを待って、種もみ生産者の横山さんは馴れた手つきでコンバインを操り、ほ場の稲を刈り取っていく。収穫に用いられるコンバインは、掃除がしやすいようパーツの着脱を容易にした種もみ専用タイプ。一枚のほ場の刈り取りが終わるたびに、内部の刎や藁

をていねいに取り除き、異品種の混入を排除している。刈り取った種もみは、すぐに専用乾燥機へ運び、徹底した温度管理のもとで数時間から一昼夜の時間をかけて乾燥させる。さらに、専用調製プラントで選別や梱包などの仕上げを済ませた種もみは、倉庫に運ばれて

出荷までの時を待つ。この工程でも、異物などの混入を排除する厳しい管理が行われている。高く積み上げられたもみ袋の前で、横山さんは「丹精こめて育てた種もみです。次の秋には各地でおいしい米を実らせるのを楽しみにしています」と話した。



調製を終えた種もみは農協内の専用倉庫で出荷を待つ



上/専用乾燥機も一品種の乾燥が終わるたびに清掃される。
下/調製プラントでは未熟粒などを選び分け、優良種もみだけを選別する

message

確かな品質に絶対の信頼

富山県農業法人協会会長 高田 法定 さん
富山の種もみを使って米づくりをしています。種もみに由来する問題が発生したことは一度もありません。一年の実りを約束してくれる信頼性の高さが何よりも魅力です。播種しやすいよう、ていねいに芒を取り除いてあるところにも、種もみ生産者の方々のきめ細かな心くばりを感じます。他県の農業者との交流でも、富山の種もみの評判を耳にすることがありますが、わがことのように誇らしく感じます。



【関連施設】



種もみ生産の歴史や明治時代からの種もみ品種、収穫から出荷までの工程などを、パネルや映像などを駆使して紹介する施設。30品種を超える種もみのサンプルや稲株なども展示している。

JAとなみ野 種子資料館
 〇 砺波市庄川町五ヶ445-2 (JAとなみ野種稲センター内)
 〇 北陸自動車道砺波ICより車で10分
 ☎ 0763-82-0117
 〇 8:30~17:00
 〇 平日のみ (要事前連絡)



専用コンバインを操り実った稲を刈り取る横山さん